

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201254		
法人名	社会福祉法人 貴船会		
事業所名	グループホーム 大観苑 ユニット名 さざなみ		
所在地	大分県別府市鉄輪東8組		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大観苑では「お客様が主人公になれる施設づくり」を目指し、日々ご利用者の方々を中心となり共に生活を行っていくことを念頭に介護を行っています。利用者の個々人のニーズを把握し個別的にケアを行うことを常に考え、ご利用者が認知症になっても安心して生活が送れるように支援をしています。又、より専門的な職員の育成の為、外部研修等にも積極的に参加し職員のスキルアップを図っています。地域密着型サービスとして、地域との連携、ボランティアへの参加、研修生の受け入れ等を積極的に行い認知症高齢者の理解の普及につとめられるように努力すると共に利用者が安心して地域社会での生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームのある高台からは別府湾や市内が一望でき開放感のある環境であり、敷地内の散歩や畑の利用などや遠出も含めて外出の機会を設けている。
 ・職員は笑顔が多く、温泉での毎日の入浴や食事では栄養士と協力しながら献立をたてるなど、各自の状態やペースに応じた工夫をする等、理念に沿った支援に繋げている。
 ・週2・3回、手品や寸劇などのボランティアが訪問しており、継続的な関係づくりができています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様が主人公になれる施設づくり」の理念のもと、実現できるよう職員全体で取り組んでいる。 朝礼で運営理念を三唱している。	理念を朝礼で三唱しながら全職員で共有できるようにしており、職員は明るく笑顔で対応するなど実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には、地域住民を始め、地域医療に携わる医師などにも参加してもらっている。 買い物への支援、地域の祭りなどには参加するようにしている。	地域で開催される温泉祭りの際には、お神輿がホームに来てくれたり、週2・3回ボランティアが手品や劇などの訪問や自治会の方が手作りの野菜を持ってきてくれるなどしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡協議会を通して、市民の方々に認知症高齢者への理解や支援の方法などの講演会などを開催している。 研修生、実習生等の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議には、地域住民をはじめ、地域医療に携わっている医師などにも参加してもらい、話し合ったことは、サービス向上に活かしている。	会議メンバーである医師が感染症についての話をしてくれたり、地域の委員からの提案で、地域の公民館で職員が認知症についての話しを行なっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録は毎回市役所に提出している。 市役所からの通知などは、直接事業所にメールで届くようにしている。又意見、お願いなどもメールでやり取りなどを行っている。	運営推進会議の議事録を毎回、市役所に提出し、相談や質問は直接出向いたり、電話やメールでやり取りしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめている。 玄関、居室などには鍵に頼らず、自由に入出りが出来るようにしている。	定期的に内外研修の参加やカンファレンスで事例の話し合いをするなど、身体拘束のないケアに繋げている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しては厳しく対応している。 虐待防止の勉強会などは行っていないので、資料などを作成して、職員に配布し勉強等を行う。		

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度などは入居者の家族には入居時に説明を行っている。又研修会などがある場合は、積極的に参加してもらっているようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約時には、重要事項の説明を行い同意を得るようにしている。 介護報酬の改定等の際もその都度家族の方々に説明、同意を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開き、ご家族から意見などを頂いている。 家族会会長には貴船会の評議員として運営にも係わってもらっている。	年2回家族会を開催し、ほぼ全ての家族が参加し、意見や質問に対応している。利用者から年1回程度嗜好調査や聞き取りで希望等を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には副苑長をはじめ、ホーム長、主任も参加し、職員の意見などを聞くようにしている。	毎月、全体とユニット毎での会議を開催し、職員の意見を聞いており、レクリエーションなど運営や業務に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は処遇改善交付金等の支給が行われる予定。 勤務状況はタイムカードで把握している。 職員の勤務希望などを取っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修会などには積極的に職員が参加できるようにしている。 職員育成の為問題、疑問などがある場合は管理者として、職員に理解できるように説明、指導を行うようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会、宅老所・グループホーム連絡会の会員に入っており、勉強会、役員会、各種研修会などがある場合は参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者に対しては本人とその家族との話し合いを重ね、入居者の不安、家族の不安などの聞き取りを行い、スムーズにサービスが開始できるように支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族の不安・思い等を聞き出し、話し合いを重ねる事で不安の解消に努め、スムーズにサービスが開始できるようにつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時にはアセスメントを行い、利用者にとって何が必要で、何が不要なのかの確認を取り、必要であれば他のサービスの併用も検討できるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理等、利用者に出来ることなどの見際を行い、出来る事は手伝ってもらい、出来ないことを職員がするようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会等の行事には家族にも、お知らせを行い参加してもらう機会を行う。 正月、お盆などには、手紙などを出して帰省の促すなどをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の際にはお知らせを送付し、家族に参加してもらうようにしている。 面会は自由で(特別な理由がない限り)面会時間も設定していない。	墓参りや年賀状のやり取り、ペット好きの方の居室には写真や置物を置くなどの支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、必要な支援を行っている。 入居者同士がトラブルになるときも、職員が間に入って、一方が悪くならないように注意している。		

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も出来る限り、家族と、利用者に支援を行うようにしている。(病院に面会に出かけたり、家族と連絡を取ったり)		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの要望などには出来る限り、敏速に対応できるようにしている。定期的に入居者、家族との3者での面談を行い、本人、家族の意思、意見、思いの取入れを行うようにしている。	日常の関わりのなかでのしぐさや表情、過去の生活歴から利用者やその家族の思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などはアセスメント用紙に記載し職員が自由に見れるようにしている。 ケアプランにも簡単な生活歴などを盛り込み、職員が入居者一人ひとりの生活歴などを把握しやすい状況を作っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が把握できるよう申し送り等を使用して職員に伝わるようにしている。 バイタル測定は毎日行い、ケースファイルなどに記入を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、定期的に職員の見解、利用者の状態の把握、ケアの統一を行うようにし、記録に残し職員全体に伝わるようにしている。 家族には、面会時などに話し合っている。	毎月開催のカンファレンス時に、利用者全員のアセスメントを行いながら、随時や3カ月毎の見直しを行い、家族とは面会時に話し合いをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中、夜間の状態、状況などを記録するようにしている。 利用者の状態の変化に応じて、敏速に計画の変更を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に合わせて、病院受診、往診などを組み合わせて必要な支援を行っている。 ボランティア等にも参加できるようにしている。		

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員などは地域推進会議などにも参加してもらっている。 地域の幼稚園、中学校、高校などの行事にも参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状況に合わせて、病院受診、往診などを組み合わせて必要な支援を行うようにしている。	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医となっており、受診は職員が対応することが多いが、受診の前後に家族へ連絡しながら情報の交換を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入居者の変化等に対しては看護師と相談を行っている。 病院受診も看護師を中心に必要な病院受診を行うようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院が利用者にも与えるダメージを考慮し出来る限り、入居者が早期退院出来るように病院の医師、ソーシャルワーカーなどへの働きかけを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては、管理者、職員、家族できちんと話し合うようにしている。又ターミナルケアを行うにあたり、入居者の状況などをしっかりと見極め、出来る限りグループホームで最後まで過ごせるように支援を行っている。	方針は文書化されており、入居時に説明している。また、必要な際には家族・医師・職員と話し合いをしながら対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修会等には職員を毎年研修に参加させている。 緊急時の模擬訓練などを定期的に行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。 災害時等のマニュアルを作成し職員に配布している。	災害マニュアルに基づき、毎月避難訓練を実施しており、食料や水の備蓄もされている。	地域との協力体制を作っていくことが望まれる。

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々には尊厳のある言葉かけを行うようにしている。 利用者の居室などにはロックを行い、プライバシーを損ねないようにしている。	内部・外部の定期的な研修の参加や会議で話し合いやマニュアルの利用しながらプライバシーの確保に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、利用者の好き嫌いなどを配慮するようにしている。 定期的買い物、訪問販売などに参加し、利用者がほしいものなどを選択してもらえるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が何が好きか、何をしたいのかを的確に判断できるようにしている。 レク等も、画一的に行うのではなく、利用者一人ひとりが何を望んでいるのかを確認し個別に行えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回はボランティアの美容院が来苑していただけるようになっている。 起床時などには職員が必要な利用者に対して、化粧、髭剃りなどを行うようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はグループホームで一部ではあるが共同で作っている。入居者の方で、出来る人には出来る限り手伝ってもらっている。 食事を作れない人も、食器ふきなどの簡単な作業を行ってもらっている。	併設の厨房で調理しているが、ご飯・汁物・おかず1品をホームで作っており、利用者の能力に応じて職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。また、毎月1回おやつを手作りしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表の記入、水分チェック表の記入などを行っている。 食事形態、メニュー等は利用者の状態に応じて変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、職員が誘導を行っている。 義歯を使用している入居者などには毎週定期的にポリドント洗浄を行っている。		

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者で失禁などがある方に対しては、日中、夜間共に時間を決めて個別にトイレ誘導を行い、失禁の軽減に努めている。 トイレは全室完備なので、トイレ誘導などは各個室で行うようにしている。	声掛けや誘導を行いながら可能な限りオムツを利用しない支援を行っている。また、プライバシーを大切にしながら各居室のトイレで支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の入居者には個別に下剤の使用、水分量の調節などをし、便秘予防を行っている。 排便チェックを行い、利用者の排便状況の把握を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室の温泉には常にお湯が溜まった状態にしている。入浴は毎日行っている。 入居者によって、入浴の時間、希望などがある場合は希望に応じる。	利用者毎の希望や時間に応じて、毎日入浴の支援をしている。入浴拒否される方にも時間や対応する職員を替えたりなどの工夫をしながら対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下などには椅子などを用意して、休める環境を作っている。 利用者の居室のプライバシーが守れるように、外側からは見えないようにのれんをかけたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬剤は、一覧表にしてすぐに確認できるようにしている。 薬の変更などがあった場合は、申し送り全職員に伝わるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・炊事など利用者が以前行っていたことなどを中心出来る限り、自分達で出来るように支援を行っている。 馴染みのある行事などを毎月行こなっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は出入り口のドアを開けているので、自由に外に出入りできる。(出入りする際は、センサーが反応するようになってい) 利用者で買い物などの希望がある場合は、職員が付き添いで買い物などの必要な支援を行っている。	ほぼ毎月1回行事でドライブに出かけたり、月2～3回の買い物や、日常的には敷地内の散歩や畑に外出している。	

事業者名: グループホーム大観苑(さざなみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る入居者には、小額ではあるが、自分で管理してもらうようにしている。 買い物の際などは自分でお金を実際に支払ってもらったりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態にはよるが、年賀状や暑中見舞いなどを出せるように支援を行っている。 家族からの電話等は取り次げるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどには、季節に合った飾りつけなどを行うようにしている。 食事などの際などはテレビなどを消してゆっくり食事を食べられるようにしてもらっている。	ホールや廊下には利用者が制作した作品や写真が掲示されていたり、季節感のある飾り付けがされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビを置いて、ソファ等でくつろげるようにしている。 廊下などにも椅子などを用意しており利用者がゆったり出来る場所の確保などを行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には利用者が使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうようお願いしている。入居前などにも家族には新しいものを購入するのではなく、使い慣れたものを持ってきてもらいたいとの説明を行っている。	使い慣れた家具や鉢物の植物を置いたり、ペットの写真を飾るなど、利用者が安心して居心地良く過ごせる部屋となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所のわからない入居者等には、トイレの前に目印を付けてみたりしている。 入居者一人ひとりの出来ることを探し、自分でしてもらえるような支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201254		
法人名	社会福祉法人 貴船会		
事業所名	グループホーム 大観苑 ユニット名 そよかぜ		
所在地	大分県別府市鉄輪東8組		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大観苑では「お客様が主人公になれる施設づくり」を目指し、日々ご利用者の方々が中心となり共に生活を行っていくことを念頭に介護を行っています。利用者の個々人のニーズを把握し個別的にケアを行うことを常に考え、ご利用者が認知症になっても安心して生活が送れるように支援をしています。又、より専門的な職員の育成の為、外部研修等にも積極的に参加し職員のスキルアップを図っています。地域密着型サービスとして、地域との連携、ボランティアへの参加、研修生の受け入れ等を積極的に行い認知症高齢者の理解の普及につとめられるように努力すると共に利用者が安心して地域社会での生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さざなみと同様

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様が主人公になれる施設づくり」の理念のもと、実現できるよう職員全体で取り組んでいる。 朝礼で運営理念を三唱している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には、地域住民を始め、地域医療に携わる医師などにも参加してもらっている。 買い物への支援、地域の祭りなどには参加するようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡協議会を通して、市民の方々に認知症高齢者への理解や支援の方法などの講演会などを開催している。 研修生、実習生等の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議には、地域住民をはじめ、地域医療に携わっている医師などにも参加してもらい、話し合ったことは、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録は毎回市役所に提出している。 市役所からの通知などは、直接事業所にメールで届くようにしている。又意見、お願いなどもメールでやり取りなどを行っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめている。 玄関、居室などには鍵に頼らず、自由に出入りが出来るようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しては厳しく対応している。 虐待防止の勉強会などは行っていないので、資料などを作成して、職員に配布し勉強等を行う。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度などは入居者の家族には入居時に説明を行っている。又研修会などがある場合は、積極的に参加してもらうようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約時には、重要事項の説明を行い同意を得るようにしている。 介護報酬の改定等の際もその都度家族の方々に説明、同意を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開き、ご家族から意見などを頂いている。 家族会会長には貴船会の評議員として運営にも係わってもらっている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には副苑長をはじめ、ホーム長、主任も参加し、職員の意見などを聞くようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は処遇改善交付金等の支給が行われる予定。 勤務状況はタイムカードで把握している。 職員の勤務希望などを取っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修会などには積極的に職員が参加できるようにしている。 職員育成の為問題、疑問などがある場合は管理者として、職員に理解できるように説明、指導を行うようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会、宅老所・グループホーム連絡会の会員に入っており、勉強会、役員会、各種研修会などがある場合は参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者に対しては本人とその家族との話し合いを重ね、入居者の不安、家族の不安などの聞き取りを行い、スムーズにサービスが開始できるように支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族の不安・思い等を聞き出し、話し合いを重ねる事で不安の解消に努め、スムーズにサービスが開始できるようにつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時にはアセスメントを行い、利用者にとって何が必要で、何が不要なのかの確認を取り、必要であれば他のサービスの併用も検討できるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理等、利用者に出来ることなどの見際を行い、出来る事は手伝ってもらい、出来ないことを職員がするようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会等の行事には家族にも、お知らせを行い参加してもらう機会を行う。 正月、お盆などには、手紙などを出して帰省の促すなどをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の際にはお知らせを送付し、家族に参加してもらうようにしている。 面会は自由で(特別な理由がない限り)面会時間も設定していない。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、必要な支援を行っている。 入居者同士がトラブルになるときも、職員が間に入って、一方が悪くならないように注意している。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も出来る限り、家族と、利用者支援を行うようにしている。(病院に面会に出かけたり、家族と連絡を取ったり)		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの要望などには出来る限り、敏速に対応できるようにしている。定期的に入居者、家族との3者での面談を行い、本人、家族の意思、意見、思いの取入れを行うようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などはアセスメント用紙に記載し職員が自由に見れるようにしている。 ケアプランにも簡単な生活歴などを盛り込み、職員が入居者一人ひとりの生活歴などを把握しやすい状況を作っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が把握できるよう申し送り等を使用して職員に伝わるようにしている。 バイタル測定は毎日行い、ケースファイルなどに記入を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、定期的に職員の意見、利用者の状態の把握、ケアの統一を行うようにし、記録に残し職員全体に伝わるようにしている。 家族には、面会時などに話し合っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中、夜間の状態、状況などを記録するようにしている。 利用者の状態の変化に応じて、敏速に計画の変更を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に合わせて、病院受診、往診などを組み合わせて必要な支援を行っている。 ボランティア等にも参加できるようにしている。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員などは地域推進会議などにも参加してもらっている。 地域の幼稚園、中学校、高校などの行事にも参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状況に合わせて、病院受診、往診などを組み合わせて必要な支援を行うようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入居者の変化等に対しては看護師と相談を行っている。 病院受診も看護師を中心に必要な病院受診を行うようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院が利用者にも与えるダメージを考慮し出来る限り、入居者が早期退院出来るように病院の医師、ソーシャルワーカーなどへの働きかけを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては、管理者、職員、家族できちんと話し合うようにしている。又ターミナルケアを行うにあたり、入居者の状況などをしっかりと見極め、出来る限りグループホームで最後まで過ごせるように支援を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修会等には職員を毎年研修に参加させている。 緊急時の模擬訓練などを定期的に行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。 災害時等のマニュアルを作成し職員に配布している。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々には尊厳のある言葉かけを行うようにしている。 利用者の居室などにはロックを行い、プライバシーを損ねないようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、利用者の好き嫌いなどを配慮するようにしている。 定期的に買い物、訪問販売などに参加し、利用者がほしいものなどを選択してもらえるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が何が好きか、何をしたいのかを的確に判断できるようにしている。 レク等も、画一的に行うのではなく、利用者一人ひとりが何を望んでいるのかを確認し個別に行えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回はボランティアの美容院が来苑していただけるようになっている。 起床時などには職員が必要な利用者に対して、化粧、髭剃りなどを行うようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はグループホームで一部ではあるが共同で作っている。入居者の方で、出来る人には出来る限り手伝ってもらっている。 食事を作れない人も、食器ふきなどの簡単な作業を行ってもらっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表の記入、水分チェック表の記入などを行っている。 食事形態、メニュー等は利用者の状態に応じて変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、職員が誘導を行っている。 義歯を使用している入居者などには毎週定期的にポリドント洗浄を行っている。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者で失禁などがある方に対しては、日中、夜間共に時間を決めて個別にトイレ誘導を行い、失禁の軽減に努めている。 トイレは全室完備なので、トイレ誘導などは各個室で行うようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の入居者には個別に下剤の使用、水分量の調節などをし、便秘予防を行っている。 排便チェックを行い、利用者の排便状況の把握を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室の温泉には常にお湯が溜まった状態にしている。入浴は毎日行っている。 入居者によって、入浴の時間、希望などがある場合は希望に応じる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下などには椅子などを用意して、休める環境を作っている。 利用者の居室内のプライバシーが守れるように、外側からは見えないようにのれんをかけたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬剤は、一覧表にしてすぐに確認できるようにしている。 薬の変更などがあつた場合は、申し送り全職員に伝わるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・炊事など利用者が以前行っていたことなどを中心出来る限り、自分達で出来るように支援を行っている。 馴染みのある行事などを毎月行こなっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は出入り口のドアを開けているので、自由に外に出入りできる。(出入りする際は、センサーが反応するようになっている) 利用者で買い物などの希望がある場合は、職員が付き添いで買い物などの必要な支援を行っているようにしている。		

事業者名: グループホーム大観苑(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る入居者には、小額ではあるが、自分で管理してもらうようにしている。 買い物の際などは自分でお金を実際に支払ってもらったりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態にはよるが、年賀状や暑中見舞いなどを出せるように支援を行っている。 家族からの電話等は取り次げるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどには、季節に合った飾りつけなどを行うようにしている。 食事などの際などはテレビなどを消してゆっくり食事を食べられるようにしてもらっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビを置いて、ソファ等でくつろげるようにしている。 廊下などにも椅子などを用意しており利用者がゆったり出来る場所の確保などを行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には利用者が使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうようお願いしている。入居前などにも家族には新しいものを購入するのではなく、使い慣れたものを持ってきてもらいたいとの説明を行っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所のわからない入居者等には、トイレの前に目印を付けてみたりしている。 入居者一人ひとりの出来ることを探し、自分でしてもらえるような支援を行っている。		